

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (中国)		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新車、サービス共に来客数が好調である。土日はもちろん平日もサービス客を中心に好調で、前年の102%で推移している。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・13府県ふっこう周遊割の影響で11月はほぼ満室である。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・イルミネーションイベント開催期間に入り、天候にも恵まれて週末を中心に多くの来場者がある。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・ホームページ、SNSからの問合せが増加傾向で、新規客につながっている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・100万円以上の高級ブランド時計や絵画が売れている。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・ここ数か月は来客数が前年を上回っており、今月は前年の111.7%と好調に推移している。前半は気温が下がり衣料関連が苦戦したものの、月末になって気温の低下や販売促進イベントの効果もあり一気に来客数が増加している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	販売量の動き	・公共工事などで当県への流入人口が増加しており、主力商品である米飯類の動きが活発になってきている。また、今年の冬は比較的気温も高く、人の動きも例年と比べて活発になってきている。
		コンビニ（支店長）	販売量の動き	・主力商品の動きは好調に推移している。
		家電量販店（店長）	それ以外	・暖冬の影響で暖房商品の売上が一時的に落ち込んでいるが、住宅リフォームの伸長で何とか前年の売上を確保できており、全体としては良い方向に向かっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響が落ち着き、本来の需要が戻っている。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	単価の動き	・今月に入ってワタリガニや殻付きカキ、まだ高価なイチゴなどの動きが良く、客単価が上昇していることに加え、来客数が増えて売上も増加傾向にある。イベント経費などは削減しているが、人件費は上昇しているので利益は微増にとどまっている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響が薄れている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨で被災した人が駅周辺に仮住まいで引っ越して来たので、スーパーのほか生活関連商品の売上と来客数が増加している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	来客数の動き	・11月に入り、土日や祝日の来客数が増加しており、衣料品関係は引き続き低迷しているものの、飲食やアミューズメントへの来客数は増加傾向である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・忘年会シーズンに入って飲食の機会が増え、来客数は前年並みで推移している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・レストランは個人イベントの利用が土日に集中しているが、平日の集客は相変わらず低迷している。一方で、国の復興景気施策によって宿泊の先行受注は個人、団体共に好調に推移しており、また、法人や企業の宴会受注も10月から上向きになっている。災害による景気のダメージも徐々に回復しつつある。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・7～10月上旬までの自然災害の影響が一段落し、神在月による観光客の動きも例年以上にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・11月下旬から忘年会が増えて客の動きが良い。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子から景気は良い。
		テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・イルミネーションが始まり客の動きが活発になってきている。
	観光名所（館長）	来客数の動き	・来客数が前年に比べて増えている。	
	観光名所（館長）	来客数の動き	・7～9月は豪雨や猛暑、台風など悪天候で来客数が前年より20～30%減少したが、10月以降は良い天候が続く客足も回復している。	
	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・繁忙期に入って予約は好調に推移している。客単価も上昇して3か月前と比べると状況は良くなっている。	

設計事務所（経営者）	お客様の様子	・消費税の引上げを前に、家のリフォームを考えている人からの相談が増えている。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築注文住宅の受注が好調で、現時点で前年を上回っている。
住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・新築案件については動きがないが、リフォーム案件が増加傾向である。
商店街（代表者）	お客様の様子	・地元プロ野球チームの活躍で月前半は景気が上向きであったが、後半は下向きの雰囲気強い。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の低価格志向は続き、本当に必要な商品しか購入しない。
商店街（理事）	お客様の様子	・景気が良くなっているのではなく、平成30年7月豪雨の影響で買い控えていた反動で売上が伸びている。
一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・不昧公200年祭のお陰で売上は前年比ややプラスにはなっているが、先行きが見通せない。
一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・来客数は増加傾向にあるものの、客単価が前年割れで推移しており、客の購買意欲に高まりはない。
一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	販売量の動き	・人通りは多いが、売上にはつながっていない。
百貨店（経理担当）	販売量の動き	・婦人服は秋冬物の動きが良くなり、従来のマイナス幅が縮小傾向にある。高額美術品やじゅうたんなどの催事が好調で全体の売上の底上げになっている。観光部門も好調で売上増加となっているが、食料品やお歳暮は低調で全体ではほぼ前年並みとなっている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ヤングゾーンの売上が前年をクリアしており、コートなどの重衣料の動きも良いが、ミセスゾーンは値下げ販売時でも売上が悪く、衣料に金をかけない傾向が続いている。化粧品はヤング、ミセス共に動きは良い。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・紳士服と子供服は厳しい状況であるが、婦人服は気温低下の影響でアウターの動きが良い。お歳暮は件数を減らす客がいることから状況は良くない。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・季節に左右されにくいハンドバッグや財布は好調に動いており、特に行楽向けのバッグの動きが良いが、防寒用の手袋やマフラー、ストールの動きは鈍い。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・商品価格は少し落ち着いてきている。客単価はほぼ変わらないのに、買上点数が減少している。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・野菜と果物の相場高により前年売上を確保しているものの、来客数の前年割れが続いている。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・来客数の減少は続き、客の節約傾向に変化はなく、売上上昇には結び付いていない。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・販売量は前年比100.3%、前月比99.9%と良くもなく悪くもない状況が続いているなかで、食肉関係が前年の95.2%と悪い。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の伸びが若干鈍化している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前に比べて来客数は増加しているが、昼の工事客が増加した影響なので景気が良くなっているとはいえない。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は減少しているが、客単価が上昇している。
家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年の90%であるが、4K・8K放送の開始でテレビの動きが良く、売上は維持できている。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売台数は前年数値を維持しているが、来客数が減少している。
住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・毎年行っているイベントが好調で、前年の売上をクリアしている。
その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・連休は客が旅行に出かけて来客数が少ない状況である。高額な眼鏡は売れるが、来客数が少ないので苦戦している。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少し、客単価も低下している。
一般レストラン（店長）	お客様の様子	・客の様子から景気に変化はない。当月行われた祭りは曜日が悪かったため前年を下回る来客数であるが、曜日別では前年並みである。インバウンドも依然として好調を維持しており、悪い状況ではない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・例年どおり年末が近くなって来客数は増加している。
都市型ホテル（企画担当）	単価の動き	・海外からの客が引き続き好調で、高稼働率のまま1室当たりの単価も維持できている。

旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・いまだに地方では景気回復の様子はなく、災害で旅行やイベントの中止など良い材料はない。
旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響がまだ続いており、復興事業も大きな効果はまだない。
タクシー運転手	来客数の動き	・乗車率が良くない。
タクシー運転手	お客様の様子	・11月はイベントがあって昼間の乗客数は順調に伸びているが、夜の客の動きは悪く、売上はそれほど伸びていない。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・新サービスを開始したが、契約件数に大幅な増加がない。
通信会社（総務担当）	それ以外	・山口ゆめ花博が終了し、県外からの観光客数は減少しているが、通信業界にはそれほど影響はない。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者数と商品販売高などには前年同月と比べて変動がみられない。
競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・売上が横ばいで推移している。
美容室（経営者）	お客様の様子	・気温が低下すると客は髪を伸ばす傾向があり、店に来る頻度が低下している。
美容室（経営者）	競争相手の様子	・近隣の同業者の話では、土日の集客が悪く、メニュー単価を下げないと客が来ない状況である。
設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・消費税の引上げを受けて受注活動が活発になっているが、それは一部の業者に限られており景気に大きな変化はない。
設計事務所（経営者）	来客数の動き	・消費税の引上げの情報が流れても戸建て住宅の引き合いが少ない状況が続いている。
商店街（代表者）	単価の動き	・地元プロ野球チームの日本シリーズ優勝がなかったので景気は落ち込んでいる。客は必要な商品を必要なときにしか購入しない。
一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・年賀状の印刷が家庭でできる一方で、郵便局でも受け付けている影響で注文数が減少している。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・景気に余り左右されない食料品関連が大変厳しい状況で、来客数も減少しており景気の後退感否めない。
百貨店（外商担当）	単価の動き	・生活必需品は例年並みに売れているが、美術品や宝飾品などの高額商品の動きが鈍く、数か月前と比較して客の購買意欲は低下している。
百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・前年同様の販売促進を行っても来客数の減少が続いている。暖冬の影響で冬物の動きが鈍く、このままだとファッション部門の売上減少につながる。
スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は前年の101%であるが、来客数が97.7%なので売上は前年をクリアできていない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年より減少している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・天候と曜日の影響はあるが、来客数が減少している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・前月まで高騰していた野菜価格が今月は徐々に安定しているが、予想以上に販売点数は伸びていない。さらに、暖冬の影響で鍋商材、特に豚肉ととり肉、おでんの材料の販売量が前年を割っており、現状の景気は下降基調である。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・ブラックフライデーの効果で来客数が増加して客単価も上昇しており、月中旬から気温が低下しているのでアウターの動きが良い。
衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・取引先の閉店が増えている。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・客の財布のひもは非常に固く、購買につながらない。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・前年は自動車メーカーの不正検査問題で販売量が激変して厳しかったが、一昨年と比較すると若干販売量が落ちている程度である。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新規の来客数が減少しており、広告宣伝効果が想定以下である。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・年末年始にかけて新型車発売やマイナーチェンジがあるので、客は買い控え傾向である。
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・月前半は客足が伸びても高級品の動きが悪く、後半は来客数が減少している。
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・客の来店頻度が低下しており、特に10月以降に節約傾向があって、販売量の減少につながっている。

	一般レストラン (外食事業担当)	お客様の様子	・季節指数が1年で最低の月であるが、ランチタイムの来客数と売上は前年の105%で推移している。ディナータイムは金曜日の来客数が増加しているものの、平日と休日前は前年の80%まで落ち込んでいる。ヤングファミリー客が極端に減少し、宴会も少ない状況が大きなマイナス要因となっている。食事客は増加し、飲み客は減少している状態で、平日は生ビールの動きが特に悪い。
	その他飲食 [サービスエリア内レストラン](店長)	来客数の動き	・観光客数が減少している。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・商品の引き合い件数が少し落ちている。
	通信会社(広報担当)	お客様の様子	・客は品質ではなく、常に安いものを求めている。
	x 一般小売店[眼鏡](経営者)	来客数の動き	・来客数が減少している。
	x 家電量販店(販売担当)	販売量の動き	・来客数、売上共に前年を割っている。
企業 動向 関連 (中国)	輸送用機械器具 製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・多忙な状況が続いている。
	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・お歳暮の時期になって受注は増加しているが、物流コストが高いため景気は若干上向いているだけである。
	木材木製品製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・7~8月に連続して発生した自然災害の復旧対応で、人手不足による工期の遅れが課題となっていたが、10~11月にかけて消費税の引上げ前の駆け込み需要が始まったため、景気がやや良くなってきている。
	窯業・土石製品 製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・本年度上期で大型案件が終了したが、新規大型案件が数年は継続する。
	輸送用機械器具 製造業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・11月は受注量が多く、全ての土曜日を休日出勤に当てて生産対応をしている。
	農林水産業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・相変わらず魚価が安く、少しでも高いと物が動かない状態が続いている。
	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量と販売量は前年並みであるが、原材料など経費の高騰で経営は厳しい。
	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・生産量、販売量共に好調であるが、原燃料費が高くなっているため利益は圧迫されている。コスト削減などの施策を継続しており、景況感は良くなっていない。
	鉄鋼業(総務担当)	取引先の様子	・取引先からの出荷量は底堅く推移しているが、特別この分野が良いと特筆すべき需要がない。
	輸送用機械器具 製造業(財務担当)	取引先の様子	・円安基調での為替推移や生産性の向上で採算性が高まっているものの、鋼材高や船舶過剰等の構造的問題は継続しており、景況感の回復には至らない。
	建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・技術者の稼働が目一杯の状態が継続しており、今後も予定物件で受注調整が必要な状況である。
	建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・現状の受注状況は高い水準にある。
	輸送業(総務担当)	取引先の様子	・取引先の受注量に大きな変化はない。
	輸送業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・荷物の扱い数量は継続して多いが、荷動きは余り良くないので全体的には変わらない。
	輸送業(支店 支店長)	受注量や販売量の動き	・個人からの発送量が前年を割っている。発送調整をしているなかで、受注量は前年より若干上向いている。
	通信業(営業企画担当)	取引先の様子	・IoT、RPA等の新サービスに継続して引き合いがあるが、具体的な受注件数は前月と変わらないペースとなっており、劇的な増加とはなっていない。
通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・通信機器、パソコンなどの更改に際立った動きはなく、IT導入補助金利用も余りない。	
金融業(貸付担当)	受注量や販売量の動き	・百貨店やスーパーの販売額、鋳工業の生産、出荷、在庫は持ち直しているが、輸出額、公共工事件数、観光施設利用者数、宿泊者数は減少している。	

	金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・系列完成車メーカーの新型スポーツ用多目的車の販売が好調なので、地元自動車部品メーカーの受注は高水準を維持している。受注台数は同じでも、全体的に1台当たりの受注単価が上昇しているため増収となっている。操業は1日1～2時間の残業と月2回の土曜出勤を継続している。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数と成約件数に変化はない。
	会計事務所（経営者）	取引先の様子	・業種間で差があり、平成30年7月豪雨災害からの回復が遅れている企業もある。補助金での支援施策が有効な業種や企業もあるが、全体的にはまだ模様である。
	繊維工業（監査担当）	受注量や販売量の動き	・コートやニットなどの防寒商品の引き取りが例年より遅く、余り寒くないので様子見の状態になっている。
	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前までは主力製品の受注量が緩やかな右肩上がり景気の浮揚感があったが、主要取引先の生産調整が徐々に進行している。
	非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・電子材料素材の受注量が減少している。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械業界の得意先からの受注が減少傾向で、中国向けの案件の受注が決まりにくくなっている。
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消耗部品等の売上は増加したものの、受注予定の製造装置の一部が取引先の都合により失注したので、利益ベースでは減益である。
	x	-	-
雇用関連 (中国)	求人情報誌製作会社（広告担当）	雇用形態の様子	・新卒採用がほぼ終了した企業が多いなか、継続して通年採用をしている企業が前年から増えている。新卒採用枠であっても新卒に限定せず、若年層の既卒者や第二新卒を含めて採用活動を行っている。
	民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・60歳以上の正社員採用を望む求人も現れている。
	人材派遣会社（経営企画担当）	求人数の動き	・求人の残数が同水準を維持している。
	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・欠員補充が多く、純粋な増員求人がない。
	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・3か月前と比べて求職者数に変化はなく、前年比でも同等となっている。
	求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・求人数の動きは3か月前と比べて大きな変動はなく、正社員求人は相変わらず高い水準で推移しており、今後も堅調な動きとなる。飲食店を中心としたサービス業の求人も変わらず多いが、求職者数が少なくなかなか採用に結び付いていないので、今後は求人を含める企業も出てくる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・平成30年7月豪雨以降、個人消費は回復基調にあるものの、企業は慢性的な人手不足から脱却できず、企業活動と収益を圧迫する構造は変わらない。
	職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人は、乳製品製造や食肉加工で増員募集のあった食料品製造業が大幅増となり、製造業全体では前年同月比で2割増となっている。年末年始にかけての臨時求人の増加も目立っており、求人全体でも2割増となっている。
	職業安定所（職業指導担当）	求人数の動き	・この3か月は求人数が1,500件弱、求職者数は1,000人を超える程度であり、有効求人倍率は1.3を超える状況で推移している。
	職業安定所（雇用関連担当）	求人数の動き	・県外の新店舗オープンに伴う新規求人が出たことから、小売業は前年に比べ求人数が増加しているものの、管内で大きな動きはない。
	職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数は前年同期比で減少し、離職者数の増加に伴って10か月ぶりに新規求職者数が前年同期比で増加しているが、企業の人員確保の動きは活発である。また、求人充足が進まないなか、有効求人数は11か月連続して前年同期比を上回っている。
	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求人数の動き	・求人数は減少している。外国人技能実習制度の話が進んでいるが、まだ具体的にないため効果はない。
	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	周辺企業の様子	・引き続き求人を行っている企業はみられるが、求職者が希望する業種や職種と一致しないため応募に至らない。

	学校 [大学] (就職支援担 当)	採用者数の動き	・売手市場の就職状況の要因は、若者の人口減少によるものであり、景気と連動しているためではない。
	-	-	-
x	-	-	-